

【投信調査コラム】

日本版ISAの道 その113

NIPPON
INDIVIDUAL
SAVINGS
ACCOUNT

8月の金融市場混乱の中、7月までにNISA買付5.4兆円
(推計)と順調に拡大してきたNISAで何が買われたか?
8月の人気は日本株ファンド!

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

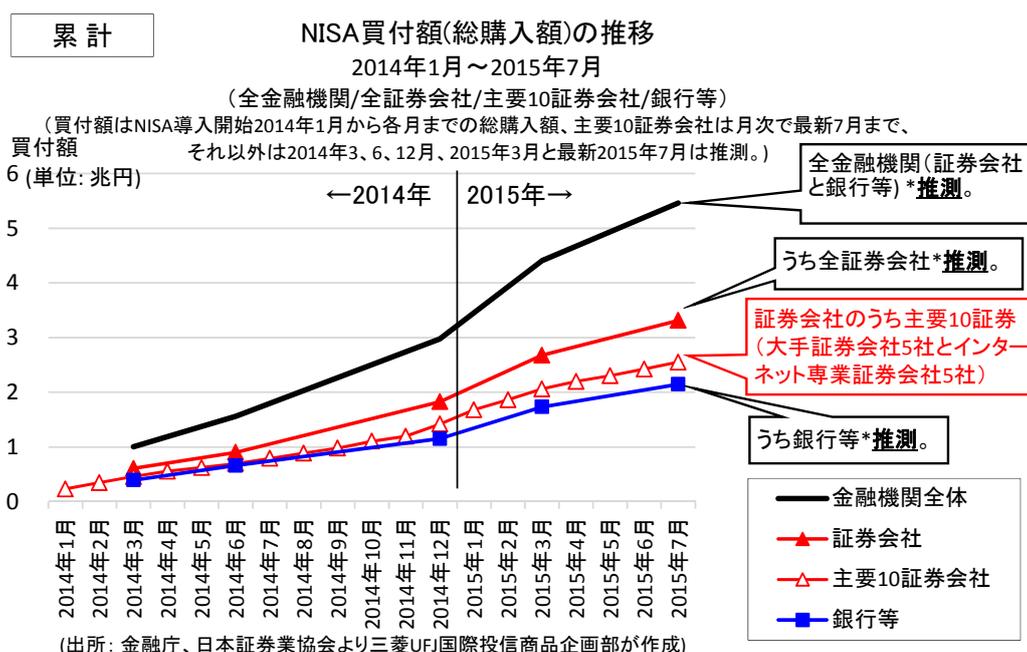
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

**主要証券のNISA買付は2.5兆円(稼働率は51.2%)で、全体は5.4兆円と推計される
8月の金融市場混乱の中、7月まで順調に拡大してきたNISAで何が買われたか?**

2015年8月28日(金)に日本証券業協会が公表したNISA口座開設・利用状況調査結果によると、主要証券会社10社のNISA口座の買付額は、制度の導入された2014年1月から2015年7月末までの累計2兆5522億円で、勘定設定口座数は7月末に449万口座。うち、実際に買付けがされた口座数は230万口座。口座稼働率は51.2%と前月6月から+0.8%上昇した。口座稼働率は、制度開始2014年1月末時点では13.9%だったが、6月末に28.8%、12月末には45.1%となって、2015年6月に50.4%と初めて半数を超え、最新7月に51.2%となったのである(調査結果の原文URLは後述[参考ホームページ])。

NISA買付額において、主要10証券会社は全金融機関の46.7%を占める(2015年3月末時点)。仮に全金融機関のNISA買付額(総購入額)が、主要10証券と同じ比率で2015年7月にかけて増えているとすれば、2015年7月末時点における全金融機関のNISA買付額(総購入額)は約5.4兆円強と推計される。

尚、NISAの導入2年目の2015年だけのNISA買付額だけに注目すると、主要証券10社では7月までの買付額が1兆1333億円と、前年2014年1~7月の7927億円の約4割増(+43.0%)、導入1年目2014年の年間買付額1兆4189億円の約8割(79.9%)に達している。さらに、2015年7月の月間だけでみると、主要証券10社の買付額は1285億円と、2カ月連続で増加となっている(2015年1月の2627億円が過去最高)。

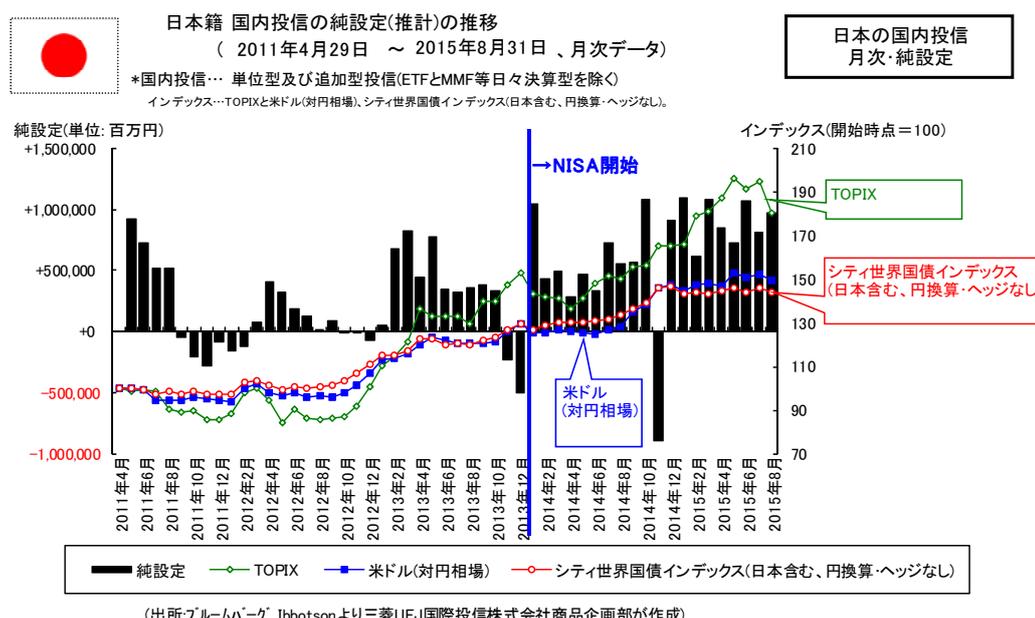


2015年7月まで順調に拡大したNISAであるが、その翌8月、中国の景気減速に伴い金融市場が混乱した。日経平均株価が8月24日に前日比-4.61%と、2013年6月13日以来2年3カ月ぶりの大きな下落、(2日後26日に+3.20%の上昇)、月間では前月比-8.23%と2014年1月以来1年8カ月ぶりの大きな下落となった。NY

ダウは8月に前月比-6.57%と2010年5月以来5年4カ月ぶりの大きな下落率である。この8月の金融市場混乱の中、7月までにNISA買付5.4兆円(推計)と順調に拡大してきたNISAで何が買われたか?

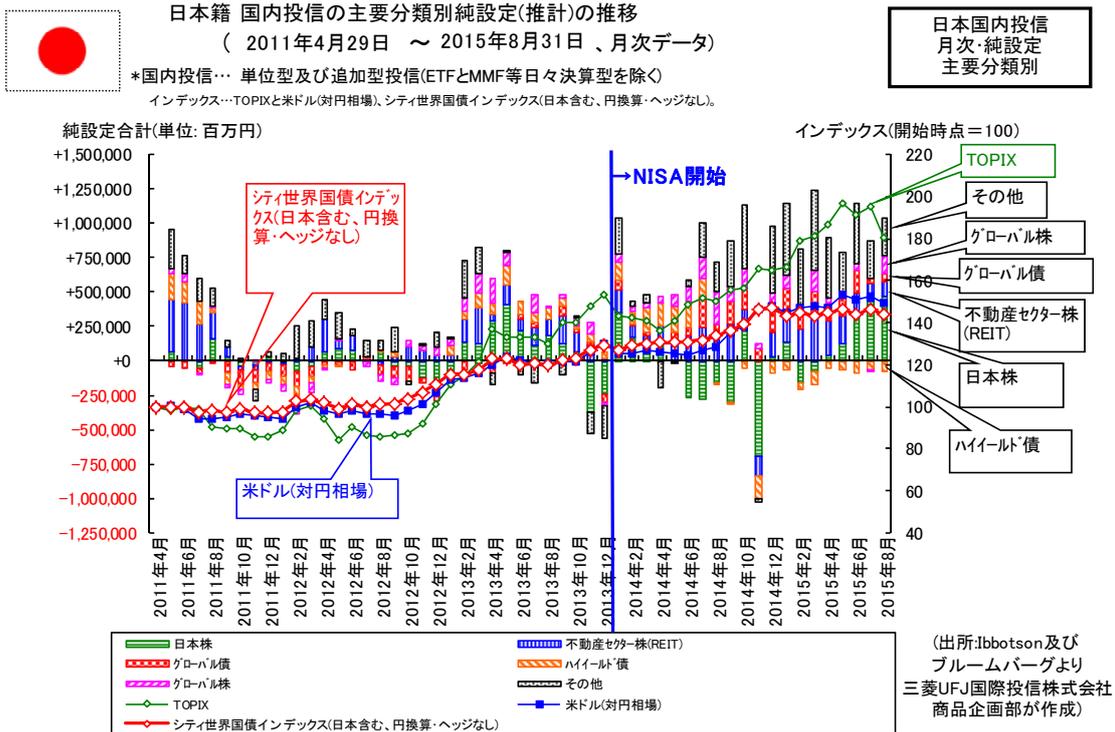
既存投資家は日本株・グローバル株・REITを買っている様だ

当コラムでは、投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分けて見ており、前者の既存投資家は投信全体の動向で代替、後者の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※1参照)で代替している。まず既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は、最新2015年8月に+9700億円強の純流入だった。前月7月に+8000億円強を上回る純流入で、これで9カ月連続純流入となる。

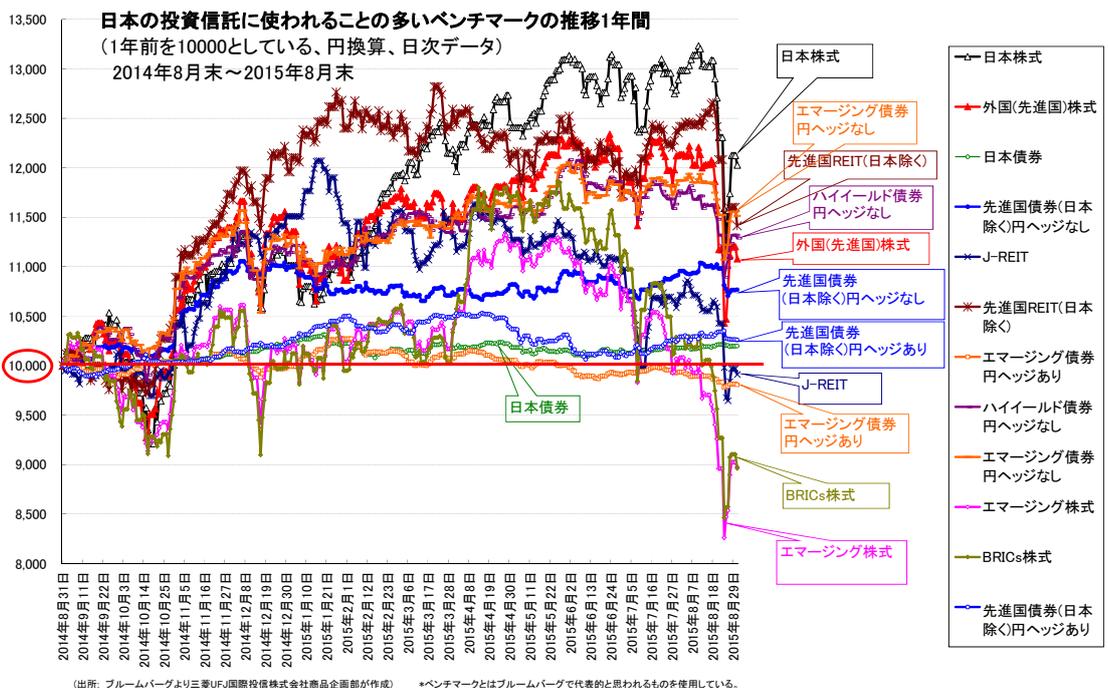


投資対象(主要分類)別で見よう。次頁のグラフの通り、最新2015年8月は日本株が最も大きな純流入であり、次いでグローバル株、不動産セクター株(REIT)、アセットアロケーション柔軟型などに資金が集まっている(*主要分類…モーニングスター分類を用いて2014年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション柔軟型はその他に含まれる)。

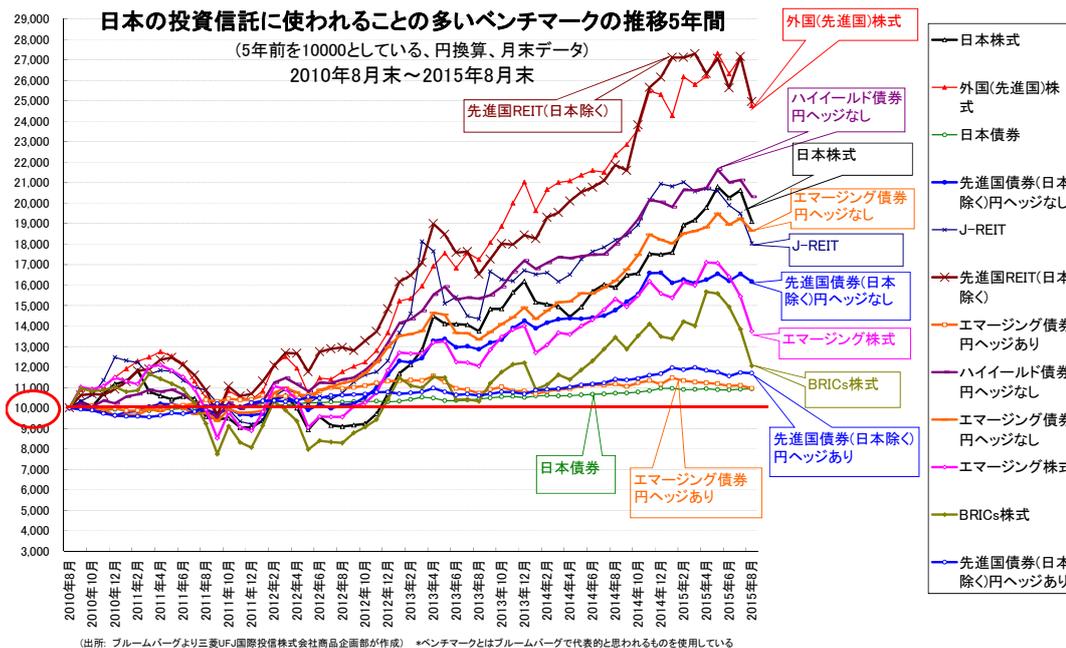
日本株の純設定は2015年8月に+4700億円強、前月7月は+4400億円強で、2015年の年初来(1~8月)では+1.3兆円の資金純流入だ。REITは、2015年の年初来(1~8月)純設定が+1.6兆円強と日本株を上回り、昨年(2014年)1年間の純設定(+1.7兆円~トップ)に8月で既に近付いているが、単月で見ると8月は+1070億円強、7月は+1200億円強とそれぞれ日本株の2割前後で、下記のグラフに示される様に足元でREITは日本株に後塵を拝している(2014年については2015年1月13日付日本版ISAの道 その86を参照~後述URL[参考ホームページ])。



こうした背景だが、パフォーマンスによるところが大きい様である。投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、下記グラフの通り、1年のパフォーマンスで好い順に、日本株式、エマージング債券、先進国REIT、ハイイールド債券、先進国株式となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。日本株は8月に急落したのち大きく反発しているが、相対的に好いパフォーマンスが投資にも反映されている様である。

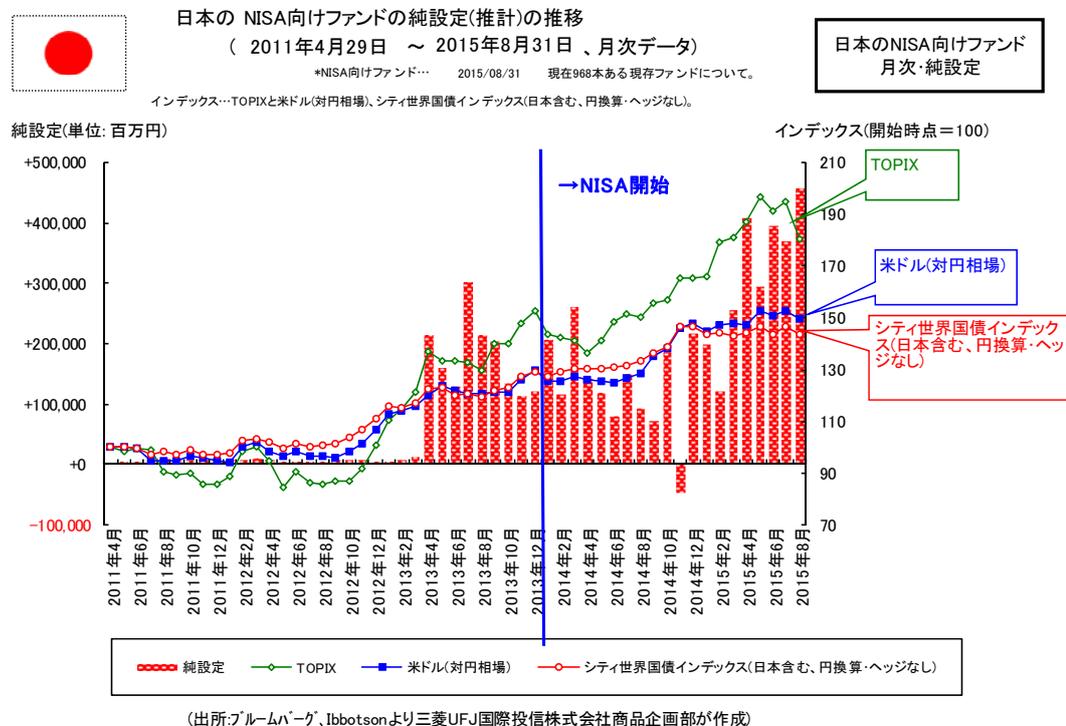


次頁グラフは5年のパフォーマンスであり、好い順に、先進国REIT、先進国株式、ハイイールド債券、日本株式、エマージング債券、J-REITとなっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



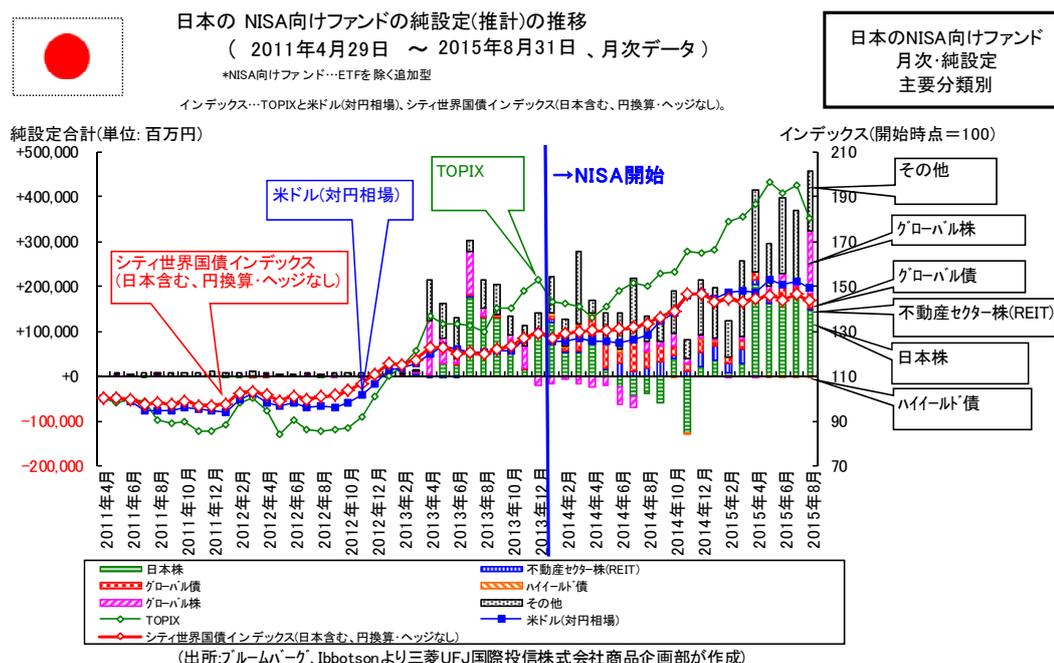
新規投資家は日本株・グローバル株・アセットアロケーションを買っている様だ

次に新規投資家を示すNISA向けファンド(後述※1参照)の純設定を見ると、下記グラフの通り、最新2015年8月に+4500億円強と、NISA開始(2014年1月)以来最大だった(これまでの最大は2015年4月の+4000億円強)。2014年12月から9カ月連続の資金純流入。既存投資家も新規投資家もNISA開始の2014年1月以降、同11月を除いて純流入が続いているが、2015年は新規投資家の伸びが既存投資家に比べて大きい様だ。



新規投資家は若年層が多いと思われるが、この若年層のNISA投資が伸びていると言う事については、金融庁の「NISA口座の開設・利用状況調査」で、「20歳代と30歳代のNISA口座に占める買付額の割合が、2015年3月末に10.3%と一年前の2014年3月の8.5%から上昇した」と言う事に示されている通りである(URLは後述[参考ホームページ])。

この新規投資家と思われる投信の2015年8月純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いると、純流入1位は前月に引き続き日本株で(2015年4月から5カ月連続1位)、2位はグローバル株(前月7月は5位)、3位はアセットアロケーション柔軟型(同2位)、4位はグローバル債(同8位)、5位は米国大型ブレンド株(同3位)となっている(アセットアロケーション柔軟型および米国大型ブレンド株は、下記グラフで「その他」に含まれる)。既存投資家でも新規投資家でも、純設定額の半数を占めるほど日本株人気は継続である。次いで、グローバル株のほか、アセットアロケーション柔軟型は安定した人気が続いている。



※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1～2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1～2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1～2回以外を除いている(*マネー・プールは年1～2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2015年8月29日時点で968本となった。

ネット証券での人気は圧倒的に日本株

ここで、各証券会社の集計結果も見る。2015年9月2日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券では最新 2015 年 8 月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト 10 を発表しており、1~4 位は日本株ファンド(*2 位はブルベアファンド)、5 位はグローバル株ファンドとなっている。前月 7 月だが、1・2・4・5 位は日本株ファンド(*5 位はブルベアファンド)、3 位はグローバル株ファンドだった。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週 2015 年 8 月 24 日から 8 月 28 日までは、1~4 位は日本株ファンド(*2 位はブルベアファンド)、5 位はグローバル株ファンドとなっている。約 1 カ月前の 2015 年 7 月 27 日から 7 月 31 日までが、1・2・4 位は日本株ファンド、3・5 位はグローバル株ファンドだった。

○カブドットコム証券では、2015 年 7 月の NISA 口座買付総合(約定金額)ランキングを出しており、1・4 位は日本株ファンド、2・5 位は不動産セクター(REIT)ファンド、3 位はアセットアロケーションファンドとなっている。前月 6 月だが、1・3 位は不動産セクター(REIT)ファンド、2 位は日本株ファンド、4 位はアセットアロケーションファンド、5 位はグローバル株ファンドだった。

○最大手である SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 2015 年 8 月 24 日から 8 月 28 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1~3・5 位は日本株ファンド(*2 位はブルベアファンド)、4 位はグローバル株ファンドとなっている。約 1 カ月前の 2015 年 7 月 27 日から 7 月 31 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・2・4 位は日本株ファンド、3 位はアセットアロケーションファンド、5 位はグローバル株ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、2015 年 8 月 24 日から 8 月 28 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1~3・5 位は日本株ファンド(*2 位はブルベアファンド)、4 位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。約 1 カ月前の 2015 年 7 月 27 日から 7 月 31 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・2・5 位は日本株ファンド、3 位は不動産セクター(REIT)ファンド、4 位はグローバル株ファンドだった。

<NISA 積立~2015 年 9 月 2 日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2015 年 8 月の NISA 月間積立契約件数ランキングを出しており、1・3 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、4 位はアセットアロケーションファンド、5 位は新興国株ファンドとなっている(*1・2・5 位はインデックスファンド)。

○カブドットコム証券では、2015 年 8 月の NISA 口座積立総合(約定金額)ランキングを出しており、1・4・5 位は日本株ファンド(*4・5 位はインデックスファンド)、2・3 位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、2015 年 8 月 24 日から 8 月 28 日までの NISA 口座では、1・3 位は日本株ファンド、2・5 位はグローバル株ファンド、4 位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(*1・2・5 位はインデックスファンド)。

ネット証券では日本株の人气が圧倒的だった。次にグローバル株や REIT ファンドへの人気である。日本株のブル型投信も人気で、8 月は通常の株価指数の値動きの2倍になる「ブル(強気)型」ETF に個人投資家の資金が集中、「短期の値幅を狙う個人が活発に売買し、ブル型は『株価が急落している局面で自律反発を狙った買いが入りやすい』」(2015 年 8 月 29 日付日本経済新聞)と報じられた。

8月に投資家に最も人気だった日本株だが、今後はどうか？ 2015年9月2日付日本経済新聞では「世界の市場関係者が今年最大のイベントと注視するのが米国の9年ぶりの利上げだ。足元の世界株安で先送り観測も出ているが、すでに市場は利上げを前提に動いている。マネーの流れはどう変わるのか。…(略)…『米国の利上げは日本株に追い風になる』と予想する市場関係者は多い。FRBが利上げするのは米国景気の底堅さの表れ。世界景気の敏感株といわれる日本株は、米景気の拡大を素直に好感するとの見方だ。…(略)…過去、米国が利上げした後には値下がりする資産もあれば、値上がりする資産もあった。80年代は日本株が、00年代の利上げ局面では米REITや新興国株式が力強く上昇した。」と報じられている。

以上、NISAで何が買われたか、について既存投資家、新規投資家、ネット証券の順で見えてきたが、8月は日本株の圧倒的人気だった。次いでグローバル株である。そのほか、既存投資家ではREIT、新規投資家はアセットアロケーションも人気だった。

「金融商品の選択肢があまりに多い。…(略)…『情報が多すぎる』。結局、『何を買えばいいのか分からない』」(2015年3月3日付日本経済新聞朝刊)と言われる中、少しでも参考になれば幸いである。もちろん、これは2015年8月における事で今後は不明である。引き続き、データ等をしっかり見て判断していきたいものである。

以 上

[参考ホームページ]

2015年9月2日付日本経済新聞朝刊「米利上げ観測、日本株は？円安期待でも波乱含み」…

「<http://www.nikkei.com/my/#!/article/DGKKZO91218980R00C15A9PPE000/>」、

2015年8月28日付日本証券業協会「NISA口座開設・利用状況調査結果(主要10社)」(平成27年7月末時点)…「<http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/nisajoukyou/nisa10.pdf>」、

2015年8月4日付日本経済新聞朝刊「外国株投資 過去最高に買越額上期10兆円 利回り低下で債券離れ」…「http://www.nikkei.com/article/DGKKASGF03H1G_T00C15A8EE8000/」、

2015年6月10日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」(平成27年3月末時点)の「NISA口座の利用状況について」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/NISA/20150610-1.html>」、

2015年8月29日付日本経済新聞…「『値動き2倍』個人資金集中 日経レバETF、新規設定を一時中止 相場への影響力も増大」…

「<http://www.nikkei.com/article/DGKKZO9111170Y5A820C1EN2000/>」、

2015年6月29日付ロイター「家計の金融資産残高、過去最高を更新 企業は現預金積み増し」…

「<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0ZF0BS20150629>」、

2015年1月13日付日本版ISAの道 その86「税制改正大綱にジュニアNISA創設とNISA120万円への引き上げ!1月から年単位で金融機関の変更が可となり、NISA拡充に期待が膨らむ中、NISAの2015年分で何に投資する?

NISAの2014年分の投資(投信分)を総括!!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150113.pdf>」、

2015年8月6日発表の日本取引所グループ投資部門別株式月間売買状況…

「<http://www.jpx.co.jp/markets/statistics-equities/investor-type/00-01.html>」、

2015年6月23日付日本経済新聞「NISAで株式投資 高配当か、成長株か」…

「<http://www.nikkei.com/money/features/83.aspx?g=DGXMZO8836149022062015000000>」、

2015年4月24日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」(平成26年12月末時点)の「NISA口座の利用状況について」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/NISA/20150424-1.html>」、

2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって？」…

「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/> 」、

マネックス証券のNISA 月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…

「 <https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales> 」、

カブドットコム証券のNISA 月間口座買付総合ランキング…

「 http://kabu.com/item/NISA/ranking/fund_generation.html 」、

SBI証券のNISA ランキング・投資信託…「 <https://www.sbisec.co.jp/> 」、

楽天証券のNISA ランキング・投資信託…「 https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking 」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

○当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

○当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

○当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

○当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。

○投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

○投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

○投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

○投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

○クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

○投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。

・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。